

育種学研究投稿規定 (1999.1.1 作成, 2017.9.9 改訂)

(目的・資格)

1. 日本育種学会の和文機関誌である「育種学研究」は、原著論文、ノート及び総説を通じて品種育成並びに育種素材や育種技術に関する研究成果を公に発信するとともに、各種記事等を通じて学会関連活動の情報を会員間で共有し、もって我が国の育種学の発展に資することを目的とする。
2. 原著論文、ノート及び総説の筆頭著者もしくは責任著者は本会の名誉会員、普通会员又は学生会員であること。

(投稿原稿の体裁・頁数)

3. 原著論文、ノート及び総説は未発表のものに限る。使用言語は日本語とし、各号に掲載されている「投稿原稿作成要領」に従って作成すること。
4. 原著論文は刷り上がり10頁を限度とする(注1)。但し、6頁を越える場合は超過分を著者が負担する。
5. ノートは育種に関する各種新資料、品種や技術に関する新情報等とする。刷り上がり8頁を限度とする。但し、4頁を越える場合は超過分を著者が負担する。
6. 総説は関連する文献を広く引用し、かつ著者の主張と論理に基づいてまとめられた論説とする。刷り上がり10頁を限度とし、8頁を越える場合は超過分を著者が負担する。
7. 電子付録、カラー印刷、その他著者の特に指定する印刷については、すべて実費を著者負担とする。

(投稿原稿の提出・受理日・審査・掲載・返却)

8. 投稿原稿は、原則として本文はWord、表はWord又はExcel、図はPower Pointで作成し、図についてはPDF版も作成する。これらは電子メールで育種学研究編集事務局へ提出する。また、代表著者名など必要事項を記入した投稿票を投稿原稿とは別にWordファイルで添付すること。
9. 原稿が編集事務局に到着した日を受領日とする。
10. 投稿原稿は担当編集委員が選ぶ2名以上の審査員の審査を受けるが、最終的採否は担当編集委員が決定する。
11. 著者は、審査結果を受け取った後、1ヶ月以内に修正し担当編集委員へ送付しなければならない。やむを得ない事情により修正原稿の送付が遅れる場合は担当編集委員の了解を受けること。
12. 担当編集者が無修正で掲載可と判断した日を受領日とする。
13. 掲載の順序、論文の体裁などは編集事務局が決定するが、原則として受領日順とする。

(別刷)

14. 別刷を希望する場合は実費著者負担とする。

(校正)

15. 著者校正は1回行う。印刷上の誤り以外の字句の修正、原稿になかった文字の挿入は原則として認めない。図の修正も認めない。
16. 校正刷は、受領後正確かつ速やかに校正の上、編集事務局宛に返送する。

(記事・その他)

17. 会員間の研究・技術交流などのため、特集記事、解説記事、育種通信及び書評の欄を設ける。
18. 特集記事とは、シンポジウム及びワークショップの報告、学会賞受賞講演内容、その他編集委員会が企画する記事とする。
19. 解説記事とは、育種に関わる新技術や新素材あるいはそれらが社会に与える影響、育種を取り巻く社会情勢の変化などを客観的な事実に基づいて解説、論考するものとする。
20. 育種通信とは、育種関係の会議の内容、各種研究会の活動、諸外国の研究事情などを紹介する記事とする。
21. その他、編集委員会が認めた記事を随時掲載する。会員間の意見交換を目的とした投稿も会員の声として受け付ける。
22. 解説記事は、刷り上がり8頁、育種通信及び書評は、刷り上がり2頁を限度とする。会員の声は1/2頁を限度とする。

(版權)

23. 本誌「育種学研究」に掲載された全ての記事内容は、日本育種学会の許可なくして無断の転載を禁止する。

注1. 刷り上がり1頁とは、35×30字詰め原稿用紙で2枚程度である。

付則

1. この規定は平成29年10月1日から施行する。
2. 投稿規定及び投稿原稿作成要領を改訂する場合は、編集委員会で改訂案を作成し、運営委員会で審議の上改訂する。運営委員会が必要と認めた場合は、さらに代議員会で審議するものとする。

投稿原稿の送付先

〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目

北海道大学大学院農学研究院

育種学研究編集事務局

犬飼 剛 (Tel: 011-706-4184, Fax: 011-706-2483)

e-mail: jsbbr@agr.hokudai.ac.jp

育種学研究投稿原稿作成要領 (1999.1.1 作成, 2016.9.23, 2017.6.1 改訂)

原著論文の作成要領

1 論文の形式

1. 原稿は、日本語の口語体とし、原則として Word を用い A4 サイズで作成する。1 行 35 文字, 1 頁 30 行, 横書きを標準とし, 左側に行番号を付す。上下左右に 3 cm 程度の余白をとり, 下側中央には頁番号を付すこと。
2. 論文第 1 頁には, 表題, 著者姓名, および括弧に入れた所属機関名, 所在地, 郵便番号を書く。その下方に摘要 (800 字以内) とキーワード (7 語以内) を記述する。

(例)

日本型イネにおける 12 対の染色体と連鎖群の対応関係
石川一郎・木村武夫

(弘前大学農学部, 弘前市, 〒036-8561)

摘要

本研究はイネの
過剰染色体の
.....
連鎖群の 明らかにした。

キーワード: *Oryza sativa*, 日本型イネ, リンケージ
分析, トリソミックス

3. 本文は原則として, 緒言, 材料および方法, 結果, 考察, 謝辞, 引用文献の順に記載する。これらの項目には番号をつけない。ただし, 材料および方法, 結果, 考察の中に項目を立てる場合は, 1., 2. … と付す。さらに細部項目を立てる場合は, 1), 2) … と付す。
4. 本文のおわりに, 英文で書いた表題, 著者姓名, 所属機関, 所在都市あるいは所在地, 郵便番号, 摘要 (400 語以内) および Key Words をつける。

(例)

Relationship between the twelve chromosomes and the linkage groups in *japonica* rice plants (*Oryza sativa* L.)

Ichiro Ishikawa and Takeo Kimura

Faculty of Agriculture, Hirosaki University, Hirosaki 036-8561, Japan

Of the twelve chromosomes
hybrids between
.....
linkage groups in rice has been established.

Key Words: *Oryza sativa*, Japonica, linkage analysis, trisomics.

5. 専門用語は育種学用語集 (日本育種学会編, 養賢堂発行) および各学会制定の用語を用いる。ただし, 翻訳できない学術語は原語を用いる。

6. 生物名はカタカナ (例 イネ), 外国人名は原則として英語 (例 Kimber) とする。
 7. 表題は, できる限り主題と副題に分けない。また, 「~に関する研究」のような表題は避ける。
 8. 摘要は, その論文の構想がわかるように, 研究の目的, 材料, 方法, 結果などの概要を改行せずに記述する。
 9. キーワード (Key Words) の選定にあたっては, 従来の例や Plant Breeding Abstracts の Index に見られる語彙を参考にする。
 10. 注は本文, 図表ともに右肩にかっこ付き小文字を付け, 脚注や図表の外に 1) …, 2) … と記述する。* や # の記号は避ける。
 11. 図および表を作成する場合は 1 頁 1 点とし, 本文原稿の後に表, 図の順にまとめる。また, 最終稿においては本文における図表の挿入箇所を本文原稿の欄外で指定する。
 12. イタリックの指定は該当する語句に下線を引いて行う。原稿でイタリックにしてある場合も指定する。ゴシック指定は不要。
 13. 句読点は「, . : ; 」とする。
 14. 年号は西暦とする。
 15. 計量単位は原則として SI 単位を用いる (丸善発行の理科年表や日本規格協会発行の SI 単位活用事典を参照)。
 16. 属名や種名はイタリックとし, 命名者や var. などはローマン体で書く。
- (例) *Ipomoea batatas* (L.) Lam.
17. 物質名は原則としてその名称を書き, 化学式は用いない (例 H_2SO_4 , CH_3OH はそれぞれ硫酸, メチルアルコールと書く)。ただし, 同じ物質を繰り返し記述するとき, あるいは, 複雑な化合物で, 化学式を書いた方がわかり易い場合はこの限りではない。
 18. 本文および摘要に略字, 略号を使うときには, 初出時に正式名称とともに記載する。

(例) エチレンイミン (EI)

pollen mother cell (PMC)

19. 数字は原則としてアラビア数字を用いるが, 熟語となっている数字は漢字とする。
- (例) 一つ, 一代雑種, 2n, 二粒系, 三染色体
20. 図の表題, 脚注は原図に書かず, 別の頁にまとめる。
 21. 表と図の表題, 脚注および図中の文字は, 和文, 英文いづれでもよいが, 同一論文中にはいづれかに統一する。和文の場合, 図 1, 表 5 のように書く。
 22. 表や図の表題や脚注を英文で書く場合は, 題名の文章は次例のように最初の語のみ大文字とする。その際, 本文中に図および表を引用する場合は Fig. 1 お

よび Table 5 のように書く。

(例)

Fig. 1. The mode of segregation trisomics.

Table 5. Chromosome configurations translocation lines

23. オンライン版掲載用の電子付録として付表や付図を作成する場合、和文の場合は付表 1、付図 2、英文の場合は Table S1、Fig. S2 などとする。表題及び脚注は、付表、付図の中を書く。その上で、次例のように本文の最後に電子付録の項を設けて、各付表、付図の表題を書く。

電子付録

付表 1. クモヘリカメムシに対するほ場検定

II 引用文献

1. 文献は引用したものに限る。
2. 本文中における文献引用の形式は、著者名（年号）とする。ただし、著者が 2 名までは姓を記し、3 名以上の場合は筆頭者の姓に“ら”（和文の場合）、“*et al.*”（英文の場合）を付する。

(例)

～を明らかにした（石川・木村 1983）。

～とされている（Smith and Jonson 1989）。

Smith *et al.* (1984) は、～

3. 引用文献記載の順序は、著者の姓のアルファベット順とし、同一著者のものが二つ以上ある場合は年次順とする。同一著者名または同じ表題の論文が続く場合でも、——などで略さない。同一著者で同一年次のもは年次の後に a, b などを付けて引用した文献がわかるようにする。
4. 引用文献には番号を付けない。
5. 雑誌の引用は、著者名、年号、論文表題、雑誌名、巻、頁の順に記す。
6. 単行本の引用は、著者名、年号、引用した章や項の表題、“書名”、編集者名、発行書店名、その所在地、引用した章や項の頁の順とする。
7. 引用した訳書名は、原著者名、年号、引用した章や項の表題、“書名”、監・訳者名、発行書店名、その所在地、引用した章や項の頁の順とする。
8. オンライン書誌を引用する場合は、著者名、年号、表題、URL の順とする。
9. 特許を引用する場合は、発明者名、出願年、特許番号もしくは特許公開番号、URL、登録日もしくは公開日の順とする。
10. 品種登録の引用の場合は、育成者名、出願年、品種名、登録番号、URL、登録日の順とする。
11. 著者名が 10 名を超える場合、最初の 10 名の著者名のみ記し、その後に和文の場合は“ら”、英文の場合は“*et al.*”を付する。
12. 引用文献名の書き方を以下に例示する。

雑誌の場合：

雑誌名は慣習的に略号でわかるものは略称で記載する。略称の書き方については、当該学会規定あるいは慣習に従うこととする。なお、本誌“育種学研究”は、“育種学研究”と書く。

(例)

石川一郎（1983）イネの三染色体植物と連鎖群の関係。育種 33: 21-27.

石川一郎・木村武夫（1988）日本型イネにおける 12 対の染色体と連鎖群の対応関係。育種 38: 175-182.

Iida, S., K. Miyahara and T. Nishio (1998) Rice mutant lines lacking α -globulin. *Breed. Sci.* 48: 45-50.

単行本の場合：

(原著本の例)

Sears, E.R. (1981) Transfer of alien genetic materials to wheat. In “Wheat science—today and tomorrow” Evans, L.T. and W.J. Peacock (eds.), Cambridge University Press, Cambridge, 75-93.

(訳本の例)

Williams, W.A. (1975) 作物収量の生理的解析，“作物生理学” 佐藤雅男監訳，鈴木浩訳，養賢社，東京。472-505.

オンライン書誌の場合：

McIntosh, R.A., Y. Yamazaki, J. Dubcovsky, J. Rogers, C. Morris, R. Apples and X.C. Xia (2013) Catalogue of gene symbols for wheat. [<http://www.shigen.nig.ac.jp/wheat/komugi/genes/download.jsp>].

特許の場合：

Sano, S., T. Fukagawa, H. Yamada, C. Masuta and H. Shimura (2007) PCT/JP2008/000655. [<http://patentscope.wipo.int/search/en/WO2008117523>]. Cited 2 Oct 2008

品種登録の場合：

佐藤 毅・沼尾吉則・吉村 徹・尾崎洋人・木下雅文・品田博史・粕谷雅志・木内 均・前川利彦・平山裕治ら（2008）ゆめびりか、登録番号 20613. [http://www.hinsyu.maff.go.jp/vips/CMM/apCMM112.aspx?TOUROKU_NO=20613&LANGUAGE=Japanese]. 2011 年 3 月 15 日登録。

ノート・総説・解説記事の作成要領

1. 原稿は日本語の口語体とする。表と図の表題、脚注および図中の文字も、原則として日本語とする。
2. 表題、著者名、所属機関、所在地などを原著論文作成要領に準じて書く。次に、英文で表題、著者名、所属機関、所在地を書く。その下にキーワード（7 語以内）を付ける。

(例)

関東のイネ品種の育成系譜

高橋一郎・斉藤喜代志・渡辺雅男
(農業研究センター, つくば市, 〒 305-8666)
Genealogical pedigrees of rice cultivars in Kanto region
Ichiro Takahashi, Kiyoshi Saitoh and Masao Watanabe
(*Natl. Agr. Res. Center*, Tsukuba 305-8666, Japan)

キーワード: *Oryza sativa*, イネ, 系統育種

3. 本文には適宜項目を立てて, 読者に理解しやすいように論点を整理する. ノートには項目を立てなくてもよい. 項目を立てる場合は, 1., 2. … と付す.
4. 摘要及び英文摘要は付けない.
5. 引用文献の表題は省略し, 著者名, 年号, 雑誌名, 巻, 頁とする. 単行本などもこの形式に準じる.

(例)

石川一郎 (1983) 育雑 33: 21–27.

Sears, E.R. (1981) *In* “Wheat science—today and tomorrow”
Evans, L.T. and W.J. Peacock (eds.), Cambridge
University Press, Cambridge, 75–93.

6. その他は, 原著論文作成要領に準じる.

育種通信及び書評の作成要領

1. 原稿は日本語の口語体とする. 表と図の表題, 脚注および図中の文字も, 原則として日本語とする.
2. 表題, 著者名, 所属機関を書く.

(例)

スティーブン・タンクスリー博士 (2016 Japan Prize 受賞者) との学術懇談会の概要報告

石川吾郎

農業・食品産業技術総合研究機構次世代作物開発研究センター

3. 摘要及び英文摘要は付けない.
4. 引用文献は付けない.

送付時の注意事項

1. 投稿原稿には, 下記に示す内容を記載した投稿票を添付する. Word で作成し, 投稿原稿とは別にする.
2. 審査員や編集委員からの指摘にもとづき, 大幅に内容を変更した投稿原稿 (とくに, 表題や図, 表の枚数に変更のあるとき) を再送付するときには, 変更箇所を赤字で訂正した新しい投稿票を送付する.

3. 原稿は, 原則として本文は Word, 表は Word 又は Excel, 図は Power Point で作成し, 図については PDF 版も作成する. 電子付録として掲載する付表や付図は, 各表, 図ごとに A4 サイズの PDF 版を作成する (他のサイズ, ファイル形式は原則受け付けない. 受理後の修正, 差替は認めない). これらは電子メールで送付する.
4. 電子メールの件名は「育種学研究投稿原稿」とする.

原著論文/ノート/総説の場合

投稿票

区分: 原著論文/ノート/総説

代表著者名: 氏名, 所属, メールアドレス

簡略表題: (約 20 字程度)

本文: ページ

表: 個 (カラー印刷希望の表の番号)

図: 個 (カラー印刷希望の図の番号)

編集委員の推薦:

1. 氏名

2.

3.

解説記事/育種通信/書評の場合

投稿票

区分: 解説記事/育種通信/書評

代表著者名: 氏名, 所属, メールアドレス

簡略表題: (約 20 字程度)

本文: ページ

表: 個 (カラー印刷希望の表の番号)

図: 個 (カラー印刷希望の図の番号)

注 1. 代表著者とは責任著者 (corresponding author) のこと.